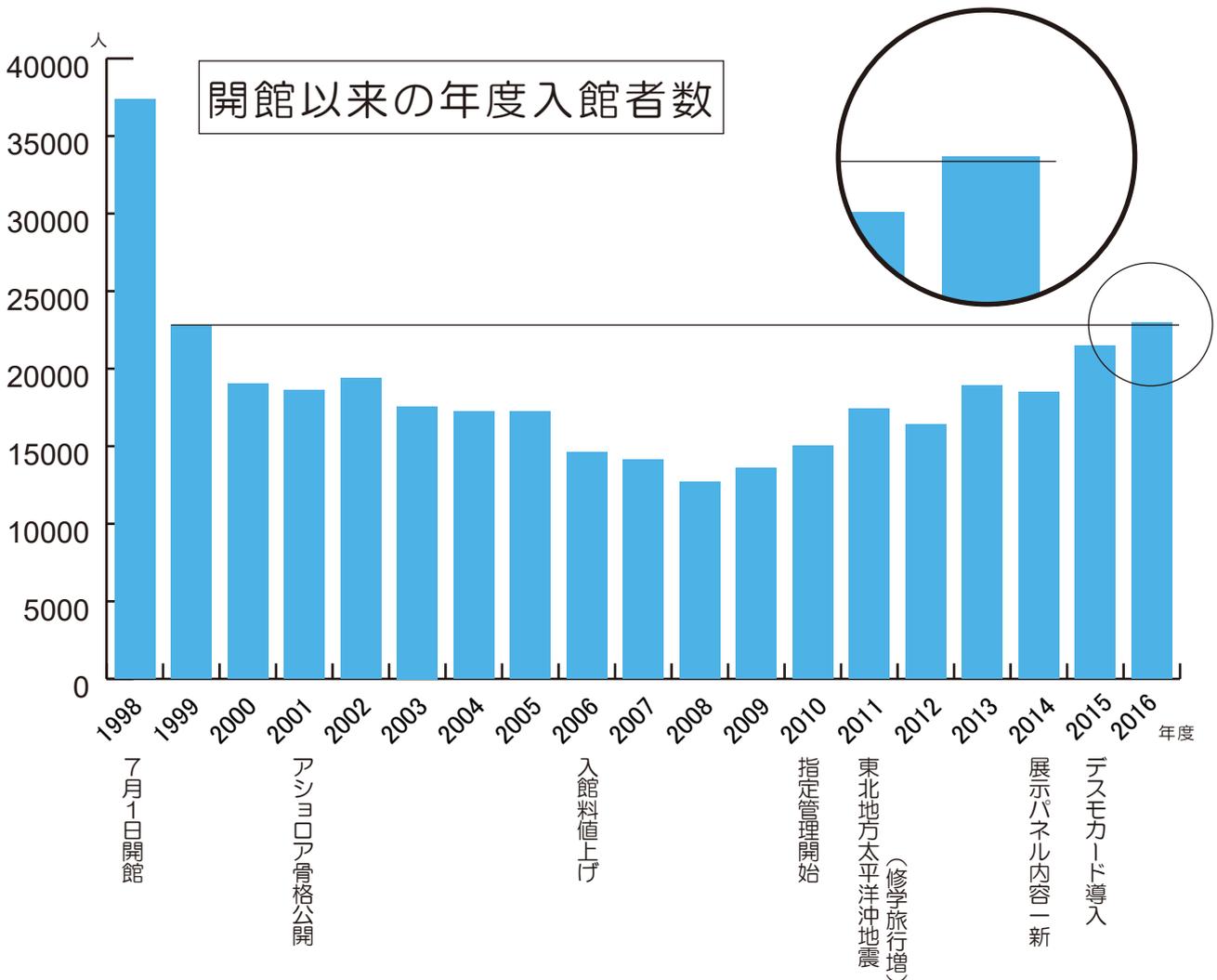




利用者 2万人越え増加

足寄動物化石博物館の年間利用者は、2015（平成27）年度、2万人を越え、2016年度は 22,958人になりました。1998年開設の年以降2番目に多い入館者数です（1999年度は22,803人）。

今後も、化石体験の充実や研究成果の広報に努め、楽しめる博物館、足寄をアピールする博物館を目指します。



足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp

No. 142

2017年 4月 12日発行

(年4回発行)

(博物館だよりpdf版あり)

ごあいさつ

博物館指定管理者 特定非営利活動法人あしよろの化石と自然
理事長 高橋一二

足寄動物化石博物館の利用者は、「2015年度の2万人越え」をさらに伸ばし、23,000人にせまりました。チラシの配布や旅行雑誌の記事・広告などのPR活動も努めていますが、なによりも入館された方が楽しく過ごせるよう「化石体験」の充実や職員の接遇に努めた成果かと捉えています。

昨年は「アショロア発見40周年」の記念として、発見者の木村学さん、命名者の犬塚則久さんをお招きし、足寄と帯広市で講演会を開催しました。200名ほどの参加者に足寄の化石の意義を説明できました。

研究・展示面では、「アショロアの泳ぐ姿勢」の骨格組立をおこない、長年の課題であったデスモスチルス類の本当の姿＝泳いでいる姿を公開できました。今年度も、泳ぎ方の詳しい復元など新しい課題に向けて取り組んでいきます。

かわった活動としては、前号から報告しているように、職員をマレーシア・ボルネオに派遣し、ボルネオゾウの世界初の骨格組立に貢献したことです。マレーシア・サバ大学の教授⇒酪農学園大学⇒旭山動物園⇒帯広畜産大学⇒足寄博物館という人脈リレーの結果、ナウマンゾウの組み立ての経験を持つ職員を派遣することになったのです。骨格組立や標本の展示で国際交流がつづく可能性があります。

多面的な活動を展開して、足寄の博物館を発展させたいと考えています。

デスモが飛んだ！？

デスモスチルスのなかまが、海を泳いだか一陸を歩いたか、学会で論争になっています。が、なんと足寄では…**空を飛んだと発表**されました。

2017年4月1日の足寄動物化石博物館玄関ロビーのようすです。

そういえば、昨年(2016年)の4月1日は、大型のクジラ化石の名前が「ラワンブキクジラ」という発表でした…。



ボルネオで ゾウ骨格 組み立て 支援記 (2)

2016年6月から3回にわたってマレーシア・サバ大学(ボルネオ島北部)を訪問し、ボルネオゾウの骨格組み立ての支援に従事しました。訪問1度目の様子は141号で紹介しました。

2度目の訪問は、5ヶ月後の12月。1回目の最後に、背骨を床に並べて背のおおよその格好を検討しました。その後、現地では単管パイプで枠を組み、木製の支柱をつかって胴体＝背骨と肋骨の仮組みをすすめていました。化石の復元と同じように、骨格の組立では、まず背骨の並びをつくり、肋骨を取り付けて、体幹をつくり出します。そこに、頭部、後足、前足、という順番で「体形」をつくりだしていきます。6月に動物園で観察した生きているゾウの姿を思い浮かべながら、写真も参考にして仮組みの作業が進みます。

サバ大学のスタッフはゾウの形が見えてくると楽しそうな雰囲気が高まり、骨の関節の仕方を試したり、欠けた部分を作り直したり、とりあえず順調にすすみました。が、不安なことが一つありました。本組みの骨格は長い展示に耐えられるように鉄骨で支柱をつくる必要があります。縦の柱だけでなく、背中のカーブや複雑な手・足を支える、結構複雑な作業が必要なのです。うまく完成まで漕ぎ着けるかちょっと心配だったのです。

やってきた鉄工さんは中国系の方で、英語が通じない。大学スタッフが間にはいって、背骨をのせて体全体を支える支柱・梁(はり)を説明し、大きな構造をまず理解していただきました。二日後、支柱が届きました。鉄帯はうまく曲げてあり、背中のカーブにピッタリです。そこに、断面が「T」字型になるように、鉄帯を縦に曲げて溶接してあったのです。以前カバを組んだとき足寄町内のTさんがおなじ細工をしてくれたのを思い出しました。「こりゃいける」とホッとしました。2度目の訪問は鉄骨に背骨と肋骨を取り付けて終了となりました。

3回目は、3月はじめ。前足・後足の取り付けです。大学の作業場所に溶接機材を運んでもらい、腕の骨の傾きを調節しながらパイプを溶接、などの仕事を、何度もやり直しながらすすめました。そこでは、「通訳」は要りませんでした。鉄工さんの飲み込みがよく、日本語での説明だけで通じたのです。

「手足」は、指毎に鉄帯をあてて固定するという方法で仕上げました。微妙なカーブをだすのがたいへんで、この作業で丸2日かかりました。最後の数日は、土日返上・夜9時まで、というボルネオでは考えられないハードな日程でしたが、ついに完成しました。(つづく)



木の支柱のとなりにおいた鉄骨支柱



前足を取り付けるためのパイプを溶接



指の骨は1本ずつ鉄帯で固定

あしよろ化石教室

2017年も3回実施します

6月 18日(日) 6月8日申込み締め切り
「足寄町螺湾らわん」2500万年前の哺乳類化石産地と
500万年前の貝化石

7月 9日(日) 6月29日申込み締め切り
「釧路市阿寒」500万年前の貝化石

9月 3日(日) 8月25日申込み締め切り
「白糠町右股」3000万年前の貝化石

※採取した化石は、持ち帰れます。職員の判断
により館の標本になることがあります。

※保険料(一人100円、各回)をいただきます。

参加方法

各回の申込用紙に必要事項を記入して、
博物館へ 締切りまでにとどけてください。

来館、ファックス、郵便、で。
eメールの場合は用紙書式でなくてもOK。

申込用紙は、博物館受け付けにあります。
ホームページからも入手可能です。

集合場所、時刻などの資料は締切りのあとに
お送りします。

「石はみがくと玉になる」地質の日 協賛イベント

日 程：5月14日(日) 午前10時30分

所要時間：1時間～

集合場所：足寄動物化石博物館 作業展示室

材料費：300円 (入館料はいりません)

みがく石：アショロアの模様入りの**十勝石**

日高山脈の**結晶片岩**(きらきらした石)

などの石をえらんでいただきます。

※自分のみがきたい石をもってきてもいいよ。



探鳥会 予約不要・参加費無料

第2回 5月14日(日) 午前8時
里見が丘公園駐車場の芝桜園入り口集合
(郊南交差点から西へ、国道241号沿い)

*不明な点は博物館までお問い合わせください。

2時間くらいです。十分な防寒で
おこしてください。双眼鏡、カメラ、
筆記用具があるとより良く観察が
できます。

足寄動物化石博物館の利用について

○開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館締め切り時刻)

○休 館 毎週火曜日(祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日)
年末(12月30日から)・年始(1月6日まで)
※「海の日」から8月末までは、全日開館します。

○料 金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。
※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



おかげさまで入館者は増えています。2016年度は開館以来2番目に多い年になりました。初年度の
最高峰は目標としては高いのですが、そこに山がある限り・・・登りたい。